



KMU 金沢医科大学氷見市民病院

| 広 | 報 | 誌 |

# かけはし

氷見

KAKEHASHI



患者さんと病院と  
地域をつなぐ広報誌

KANAZAWA MEDICAL UNIVERSITY  
HIMI MUNICIPAL HOSPITAL



TOPICS ●トピックス

## 新年のご挨拶

初詣(上野東照宮)

### CONTENTS ●もくじ

TOPICS	新年のご挨拶	P.01
特集	市民公開講座	P.02
	地域医療懇談会	P.02
	佐伯先生の診察室から	P.03
	診療コラム	P.04
	病院★ニュース	P.05
	病院からのお知らせ掲示板	P.06
	まちかど情報	P.07

### 病院の理念

私たちは「生命の畏敬」を医療活動の原点として  
次のような病院を目指します。

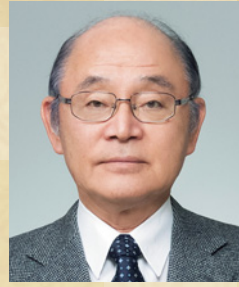
- 医療人としての研鑽に励み、患者さん中心の医療を実践します。
- 住民の健康と生命を守る中核病院として、安全で質の高い医療を提供します。
- 地域の医療機関と協力し、地域の医療福祉の向上に貢献します。
- 将来の地域医療の担い手となる有能な医療人を育成します。







# 新年のご挨拶



最高経営責任者 (CEO)

松本 忠美

**皆** 様、明けましておめでとうございます。

昨年の暮れは二度の寒波に襲われましたが、北陸地方においては、雪景色の美しい比較的穏やかな正月を迎えました。

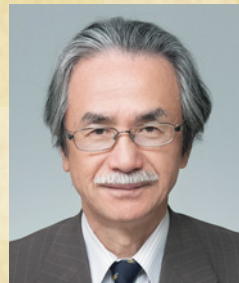
さて、昨年も世界中が3年前に始まった新型コロナウイルス感染症に見舞われた一年でした。日本においては、昨年の1月から3月の第6波、7月から9月の第7波の感染拡大に襲われ、特に8月、9月の第7波の際は、富山県内で一日の新規感染者が2,500人を超え、当院の発熱外来においてもピーク時には1日あたりの受診者数が72人、陽性者数が40人におよび、この頃のコロナ入院患者は、確保病床上限の13人に達する状況でした。

例年行われる病院行事やイベントについても、新入職員歓迎会、夏の職員バーベキュー大会、忘年会など

どの職員行事や、夏休み親子ふれあい医療フェスティバルや健康づくり教室などの市民イベントが3年連続して中止を余儀なくされましたが、今年度は地域の医療機関との連携強化を目的とした地域医療懇談会や市民公開講座においては、感染対策を十分講じたうえで10月に開館した氷見市芸術文化館で行うことができました。職員行事におきましては、新入職員歓迎会や忘年会等の中止によって親睦の機会が少なくなり、職員間の潤滑油が減少したように思われます。

10月に入って発熱外来でのコロナ陽性者及び入院患者は一時的に減少しましたが、11月から再び増加傾向に転じ、12月には富山県の1日あたりの新規感染者数が1,000人を超えるようになり、新型コロナウイルス感染症の第8波を迎えました。全職員の感染防止に対する職業意識を高め、今後来ることが予想される大きな波に立ち向かってまいりたいと思います。

このような医療危機の時こそ、我々は医療の原点に戻って、市民に寄り添った質の高い親切的な医療を提供していかねければならないと考えております。



病院長

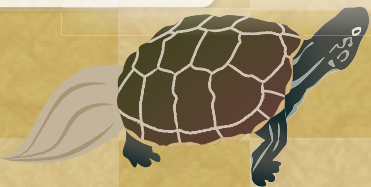
梅 博久

**明** けましておめでとうございます。令和5年の年明けを謹んでお迎えしたいと思います。

令和4年は年初からコロナの第6波、夏頃には今までの最多の第7波の流行を経験しました。富山県内のコロナ病床は逼迫し今までの最強のフェーズ3対応となりました。氷見市民病院でも7月〜9月にはフェーズ3対応のコロナ病床がほぼ埋まる1日あたり13名程の患者が入院し、通算では60名程度の患者の入院診療を行いました。ただし、肺炎合併などの重症化する患者が減少したことと専用の内服薬「ラゲブリオ」の承認などにより、コロナ診療はかなり改善し

ています。また11月には早くも第8波が来ており、これまでよりも高い波になりそうです。一方県内公的病院のほとんどでコロナの院内クラスターが起こり対応に苦慮しています。氷見市民病院では初期からコロナ感染対策を十分に行なっておりますが、今後も初期対応などで十分な注意が必要です。

当院が解決すべき課題は、まず、看護師、薬剤師など職員の不足解消です。これまで地元の高校や看護系学校で種々の地道な募集活動を行っており、来年度に向けて少し効果がみられています。次に高岡医療圏のほとんどの病院では急性期入院患者が減少傾向であり、当院では対策として開業医の皆様との病診連携と二次救急患者の対応に力を入れています。当院職員の士気は高く数年中にはいい方向に解決すると信じています。

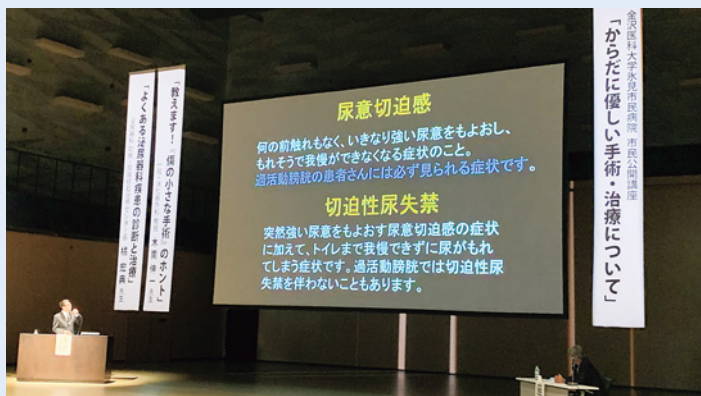




## 金沢医科大学氷見市民病院

# 市民公開講座

令和4年12月3日(土)14時から、今年新たに誕生した氷見市芸術文化館で市民公開講座を開催しました。今回のテーマは「からだに優しい手術・治療について」とし、一般消化器外科の木南伸一教授と泌尿器科の橘宏典助教が講演を行いました。



「からだに優しい手術・治療について」

**尿意切迫感**  
何の前触れもなく、いきなり強い尿意をもよおし、もれそうで我慢ができなくなる症状のこと。過活動膀胱の患者さんには必ず見られる症状です。

**切迫性尿失禁**  
突然強い尿意をもよおす尿意切迫感の症状に加えて、トイレまで我慢できずに尿がもれてしまう症状です。過活動膀胱では切迫性尿失禁を伴わないこともあります。

初めに、木南教授が「教えます！『傷の小さな手術』のホント」と題し、傷が小さく痛みの少ない「からだに優しい手術」として腹腔鏡手術をテーマに、手術のメリットやデメリットを説明し、腹腔鏡手術のデメリットを克服するための「蛍光ガイド下手術」や「多自由度鉗子」など、当院で実施している安全で確実な手術を行うための取り組みを紹介しました。

続いて、橘助教が「よくある泌尿器科疾患の診断と治療」と題し、過活動膀胱、尿路結石症、前立腺肥大症を取り上げ、診断や治療方法を説明しました。中でも「経尿道的前立腺吊り上げ術」は、前立腺組織の加熱や切除の必要がない「からだに優しい治療法」として紹介しました。

講演終了後のアンケートでは、「講演が分かりやすかった」、「非常に興味深い内容だった」などの声が寄せられました。今後も公開講座や広報誌、ケーブルテレビを通じて病気や医療に関する情報を発信していきますので、ぜひご覧ください。

## 金沢医科大学氷見市民病院

第14回

# 地域医療

# 懇談会

令和4年12月3日(土)17時から、旧市民病院跡地に誕生した氷見市芸術文化館で、第14回金沢医科大学氷見市民病院地域医療懇談会を開催し、当院職員および地域の医療機関の先生方43名が参加されました。



はじめに、松本忠美最高経営責任者の開会挨拶があり、続いて梅博久

病院長から当院の近年の診療動向について報告しました。その後、当院の役職者ならびに今年度の新任医師の紹介とあいさつを行いました。

また、当院の診療紹介として、整形外科の廣村健太郎准教授から「高齢者大腿骨近位部骨折患者に対する骨粗鬆症治療介入の現状と今後の課題」について、耳鼻いんこう科の坪田雅仁准教授から「高齢化社会に応じた当科の取り組みについてーめまい・難聴を中心にー」と題し講演を行いました。高齢者の多い氷見市における診療の現状や課題、今後の対応等について大変わかりやすい内容で、講演後は地域の医療機関の先生方からのたくさん質問がありました。今回の懇談会によって、当院と地域の医療機関がより連携を深め、氷見市民の皆様健康維持のために一丸となって取り組んでいかなければならないと改めて感じた時間でした。

さへき  
佐伯先生の  
診察室から

産婦人科 助教

佐伯 吉彦

SAEKI YOSHIHIKO

今年4月から氷見市民病院の産婦人科勤務となりました佐伯吉彦と申します。

私は、氷見で生まれ氷見で育った氷見っ子です。幼い頃は、氷見市栄町の宿舎に住んでおり、アソカ幼稚園、東小学校(現:比美乃江小学校)、北部中学校に通っていました。そんな故郷で産婦人科医として診療を行う機会をいただき嬉しく思います。



金沢医科大学を卒業後、初期臨床研修医として氷見市民病院で2年間の研修を受けました。そこで、医師としての基本的な知識や技術、考え方を学ばせていただき、その後は金沢医科大学病院の産科婦人科笹川教授のもとで、産婦人科医としての研修を開始しました。大学では、周産期管理や一般外来診療だけではなく、腹腔鏡などを用いた手術や悪性腫瘍の管理など幅広く研修させていただいています。

現在、氷見市民病院では婦人科外来を中心に診療を行っています。婦人科領域では、様々な訴えの患者様がいらつしやいます。例えば、過多月経(生理の量が多い)、月経困難症(生理前後で痛みや気分の落ち込みがある)、排尿障害(おしっこが出にくい・排尿回数が多い、痛みがあるなど)、更年期障害(急に汗をかく、倦怠感があるなど)、子宮脱(子宮や膣が体外にさがってくる)などがあります。これら

は、生活の質に大きく関与する疾患です。少しでも症状を改善し、快適な生活を送ることに助力いたしますのでお困りの方は是非ご相談ください。当院では投薬だけではなく、漢方や器具などを用いた治療も行っており、皆さんの生活に合わせた治療が可能です。また、手術が必要な場合には、金沢医科大学と連携のうえ悪性腫瘍などの精査加療を行っています。婦人科領域の癌は自覚症状がないまま進行する怖い例も多くあり、ぜひ定期的ながん検診を受けることをお勧めします。

また研修中の身ではありますが、氷見市出身の医療者として氷見市に貢献していきたいと考えています。患者さんの生活が少しでも改善し、健康な生活を送ることに助力できれば幸いです。まだまだ未熟な医療者ではありますが、精一杯努力してまいりますので今後ともご指導・ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。

佐伯 吉彦 ★ 略歴

【専門領域】

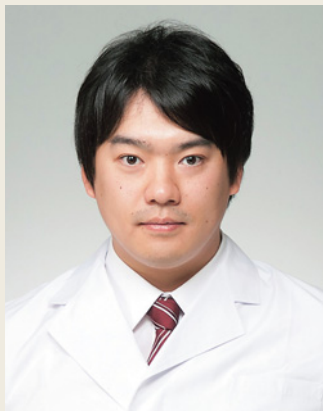
◎産婦人科 全般

【学歴・職歴】

◎平成28年3月 金沢医科大学 医学部 卒業  
◎平成28年4月 金沢医科大学氷見市民病院 臨床研修医  
◎平成30年4月 金沢医科大学病院 産科婦人科 医員  
◎令和 4年4月 金沢医科大学氷見市民病院 産婦人科 助教

【所属学会】

日本産婦人科学会  
日本性感感染症学会  
婦人科腫瘍学会





# 診療コラム

## 防災センターのお仕事を紹介します

当院の「防災センター」は、時間外入口・救急外来のすぐ近くにあり、東洋警備保障(株)の協力のもと運営しております。

スタッフ構成は、病院内の巡回や警備、救急外来や診療時間外の来院者対応など窓口業務を担当する7名と、患者駐車場の誘導や整理を担当する3名で、



20歳代から70歳代まで幅広い年代の計10名で構成されており、防災センター内には2名のスタッフが常駐し24時間体制で対応しています。

来院する患者さんおよびご家



族や病院職員の「安心・安全」を提供するため、抜け目のない警備に日々努めています。ここ数年はコロナ禍に伴い、発熱外来へ受診する患者さんの誘導や、入院患者さんの面会禁止等の案内、時間外出入口の閉鎖による来院者対応など、慣れない業務も増える中、正確かつ迅速な対応に努めています。時間外の救急受付の際には、患者さんの「辛い・痛い・苦しい」という訴えに対し、「できるだけ患者さんの心情に寄り添った対応を心がけ、診療がスムーズに進むよう、医師や看護師へ正確な情報伝達を行うなど、常にスタッフ間で情報共有を行いながら業務にあたっています。

警備員「ぶつきら棒・頑固」といったイメージを抱く方もいらっしゃるかもしれませんが、当院の防災センターは、根が明

るく気さくなスタッフが多く、何でも気軽に声がけいただければ幸いです。コロナ禍で病院全体が大変な状況ですが、しっかりと役割を果たし乗り切っていきたいと思っております。



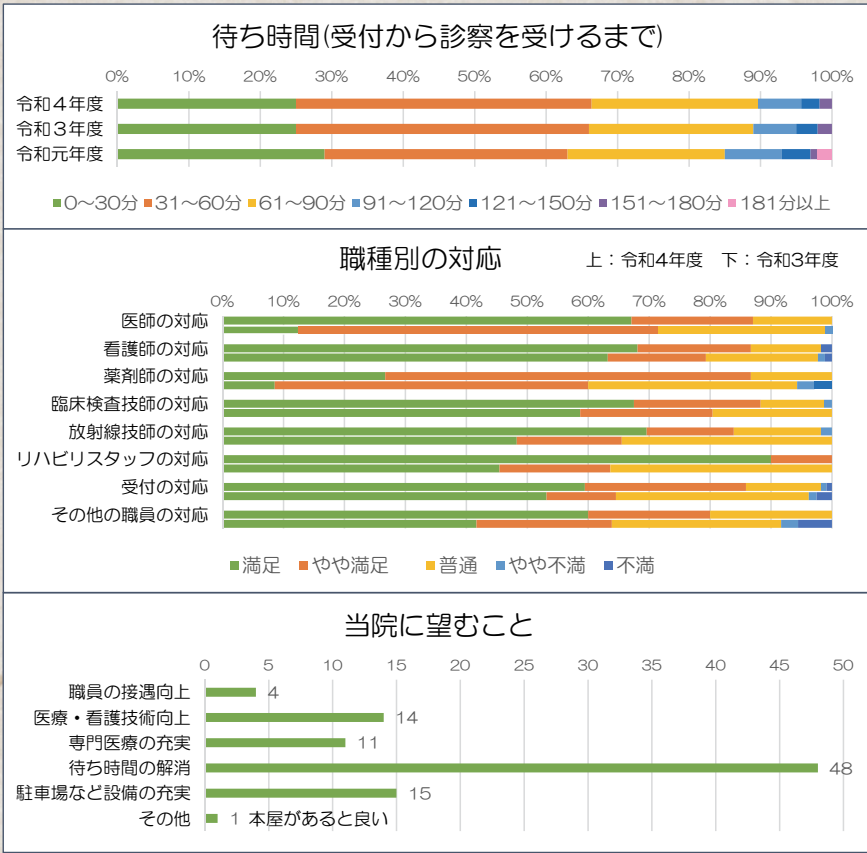


## 外来患者さんの満足度調査実施

### 「令和4年度の結果を」報告します

当院では毎年、医療サービスの向上を目的に、外来を受診された患者さんを対象にアンケート調査を実施しています。今年は、12月1日(木)～15日(木)の期間に調査を行い、119名の方からご意見を伺いました。ご協力いただいた皆様、心から感謝申し上げます。

調査結果をみると、「当院へ望むこと」への回答では、「待ち時間の解消」が最も多く、続いて「駐車場など設備の充実」を望む声が多くありました。寄せられたご意見をもとに、今後改善や対策を検討し、よりよい病院づくりに努めてまいります。



## 第12回広げようブルーサークルinひみ

### 健康講座

令和4年11月5日(土)13時30分から6階多目的ホールにおいて「広げようブルーサークルinひみ 健康講座」を開催し、約100名の参加がありました。

本イベントは、WHOが定めた11月14日の世界糖尿病デーに合わせ、平成25年から氷見市医師会、氷見市健康課と当院糖尿病委員会が共同で開催しています。ここ数年は新型コロナウイルスにより中止していましたが、今年は感染対策のもと3年ぶりに開催することができました。

はじめに、氷見市健康課から、「氷見市の糖尿病予防の取り組みについて」と題し、氷見市における「メタボリック症候群」の有病率が報告され、市が行う糖尿病対策の取り組みが紹介されました。次に、当院リハビリテーション部から「運動のすすめ」生活の質の改善を目指して」と題し、コロナ禍における運動不足解消のために、健康寿命を延ばすストレッチやウォーキング法について実演を交えながら説明されました。続いて、特別講演として、岐阜大学大学院糖尿病・内分泌代謝内科の矢部大介教授を講師にお招きし、「健康で豊かな生活をおくるために一緒にまなぶ糖尿病の正しい知

識」と題して講演をいただきました。糖尿病の予防や治療には食事が肝心であり、食後の血糖上昇を抑制するための食事の摂り方や、筋肉維持のための運動が推奨され、合併症を防いで健康な人と変わらない生活を送る方法について分かりやすく説明していただきました。

参加者からは活発な質問があり、先生のアドバイスでさらに糖尿病について理解された様子でした。また、食事方法や運動も実践したいとの感想が寄せられました。

今後も市民の方が糖尿病における理解を深め、糖尿病や合併症予防に活用していただけるよう、健康講座を開催していきたくと考えております。





## 病院からのお知らせ掲示板

● 受診の際はマイナンバーカードをご持参ください

健康保険証や限度額適用認定証の準備が不要になりました

当院では受付の前に、マイナンバーカードを顔認証付きカードリーダーにセットし、画面の指示に従って操作を行うと「健康保険証」の確認が可能です。(なお、健康保険証としての利用の際は、従来どおり毎月確認が必要なため受診の際には必ずご持参ください。)

また、医療機関や調剤薬局での医療費支払いを自己負担限度額までに抑えるための「限度額適用認定証(※)」の手続きも、マイナンバーカードがあれば簡単です。これまでは市役所や会社で事前の手続きをし、病院への提示が必要でしたが、マイナンバーカードを用いることで、手続きがカードリーダーで可能となり病院への提示が不要になります。

(※)限度額適用認定証とは、1か月の医療費が高額になった場合でも、医療機関の窓口で支払う金額が自己負担限度額までになる制度です。所得によって限度額が異なります。

**【注意】**  
患者さんが加入している医療保険がデータを登録していない場合には、マイナンバーカードでの確認ができないためこれまでと同じ扱いとなります。

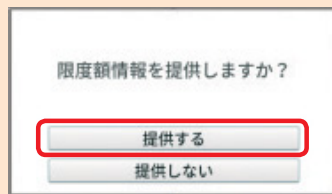
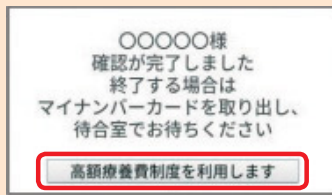


**顔認証付きカードリーダー操作方法**  
〔病院内の設置場所〕  
総合受付、エントランスホール、救急外来待合室

①マイナンバーカードをセットし、画面に従って操作



②高額療養費制度を利用するときは、確認完了後に次の画面へ



※操作方法で不明な点がありましたら、総合受付までお声がけください。

● 冬季の駐車場利用について  
～病院からのごお願い～

冬期間中は、積雪や凍結が起り、当院でも毎年、駐車場や構内道路での転倒や事故が非常に多く発生しています。病院の敷地内については、職員による除雪作業を行い、患者さんへの危険が少なくなるよう努力しておりますが、来院の際は十分ご注意ください。

### 歩行者の方

滑りにくい靴の着用や、足元を意識してゆっくり歩くなど、転倒には十分注意の上、時間に余裕をもって来院ください。

### 車で来院される方

天候による視界不良や、路面凍結によるスリップの恐れがあるため、駐車場や構内道路では最徐行の徹底をお願いします。

また、積雪により十分な駐車スペースが確保できない場合もございますが、ご理解の程をお願いします。

## 病院運営の基本方針

1. 患者さん中心の病院運営を行います。
2. 安全で信頼される医療の提供に最善を尽くします。
3. 患者さん・ご家族への「説明と同意」を徹底します。
4. 高度医療、質の高いチーム医療を推進します。
5. 地域の中核医療機関として地域医療連携・支援を推進します。
6. 良医の育成と医療人の教育・研修を推進します。
7. 働き甲斐のある健全で活力ある病院づくりに努めます。

## 患者さんの権利

当院は医療の中心は患者さんであると認識し、患者さんには次のような権利があることを宣言します。

- 安全で良質な医療を公平に受けることができます。
- 病気や治療内容について、分かりやすい言葉で説明を受け、ご自分の希望や意見を述べるすることができます。
- ご自分の意思で治療方法や医療機関を選択することができます。
- 診療記録の開示を求めることができます。
- 他の医療機関を受診することを希望されるときは、必要な情報提供を受けることができます。
- プライバシーは尊重され、個人情報は厳重に保護されます。
- 臨床研究に関して十分な説明を受けたうえで、その研究に参加するかどうかご自分の意思で決定できます。また、いつでも参加を取り消すことができます。
- 治療に関する自己決定の参考にしていただくため、セカンドオピニオンを受けることができます。

## 患者さんへのお願い

当院は、地域の中核病院としての社会的使命を果たすため、様々な医療を提供しています。患者さんには、次のことをご理解いただき適切な医療を行うためご協力くださいますようお願いいたします。

- 健康状態、その他必要なことを可能な限り正確にお話してください。
- 説明を受けてもよく理解できない場合は納得できるまでお聞きください。
- 治療を受ける場合は、医療スタッフの指示に基づき療養してください。
- 病院のルールを守り、他の患者さんの迷惑にならないようご配慮ください。
- 教育病院として、医師、医学生、看護学生、医療専門職の学生、救急救命士などの臨床実習・研修教育を行っております。厳重な指導のもとに実施していますので、ご理解とご協力をお願いします。

## まちかど情報

### 富山県内初! グランピングリゾート

2022年7月に氷見市にオープンした富山県初のグランピングリゾート「WHARF&CO.」をご存知でしょうか? グランピングとは、“グラマラス(魅力的な)”と“キャンピング”を掛け合わせた造語であり、自然の景色とともに宿泊やバーベキューを楽しみながら贅沢な時間を過ごすことができます。WHARF&CO.では、解放感溢れるコンテナ式のお部屋で立山連峰と日本海を一望でき、非日常を感じられそうですね。また、お食事は氷見の食材を取りそろえたバーベキューや、カレーやロコモコ、パフェなどのテイクアウトメニューもあり、豊富なラインナップが揃います。利用プランについては、日帰りプランやアニバーサリープランなど様々な内容から選ぶことができ、目的に合わせて多様な楽しみ方ができるのも魅力です。氷見での思い出作りに、ぜひ一度訪れてみてはいかがでしょうか?



## 表紙について

東京都台東区上野公園に鎮座する上野東照宮(1627年創建)の境内の写真です。戦争や地震による崩壊を免れた貴重な江戸初期の建築として国の重要文化財に指定されており、出世、勝利、健康長寿に特に御利益があるそうです。昨年の10月に初めてお参りしましたが、金色殿も目を見張るほど美しく、キラキラと輝いておりました。上野公園の敷地内には、博物館、美術館、動物園等多くの文化施設があります。とても素敵な公園ですので、皆さんも機会があれば、是非お立ち寄り下さい。

## 編集後記

明けましておめでとうございます。お正月はいかがお過ごしでしたか? 今年もコロナ禍での年末年始を過ごすことになり、もはやコロナ禍が日常となりつつあります。昨年は、北京冬季オリンピック・パラリンピックに始まり、ロシア軍のウクライナ侵攻・安倍元首相銃撃事件・英女王国葬・サッカーワールドカップでのドイツやスペイン戦勝利と兎走鳥飛を感じる時代の中、多様な日々をお過ごしの皆様本当にお疲れ様でした。さて、今年はどうな「抱負」を立てられましたか。どうぞ日々を大切に過ごしどんなに辛い状況でも雲外蒼天を信じ、今年こそは明るい話題があふれる世界となりますように頑張ってください。病院広報誌「かけし」が地域の皆様との絆を深められるよう、役立つ情報をお届け出来ればと思います。本年もどうぞ宜しくお願い致します。

かけし冬号編集委員 人事課 宮下 理恵

## ■広報誌「かけし 氷見」の由来

広報誌が患者さんと病院、地域と病院をつなぐ「かけし」となることを願って命名されました。